

様式 3

令和元年度 第 1 回学校関係者評価報告書

鳥取県立皆生養護学校
校長 岩田 光 冬

評 価 日		令和元年 6 月 1 9 日 (水)	
委 員	氏 名	資 格・所 属 等	委員長
	小谷 幸久	元教頭	○
	伊澤 寿高	特定非営利活動法人 希望の星 副理事長	
	吉田 典穂	かいけ心正こども園園長	
	宮本 いずみ (欠席)	ビジネスマナーインストラクター	
	後藤 幸子	P T A 会 長	
評 価 ・ 提 言		学校の所見・改善策等	
<p>1. 前年度の最終評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし <p>2. 前年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし <p>3. 今年度の評価計画について</p> <p>(1) 目標設定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし <p>(2) 目標達成のための取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の福祉サービスと学校との間にギャップがあるので、学校で学んだことが卒業後に活かされているのか。事業所の対応は多いときには6対1のこともある。 ・今年度から導入される視線入力はどういうものか。 ・目標の共有等、学習の中での教師間のつながりが必要だが、時間の確保はどうしていくのか。なかなか時間をとることが難しいのでは。 <p>(3) 評価基準及び評価指標について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし <p>4. 学校運営や予算に関する提言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路関係の予算がもっと必要なのでは。予算が増えると、取り組みも広がるのでは。 		<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の状況を把握し、現場実習が体験にならないよう、見直しも必要。普段の学習体制や学習内容も検討していきたい。 ・視線を固定したり対象物を選ぶことによって意思を伝えたりすることができるので、取り組み方を検討しつつ充実させていきたい。 ・学校として揃えることは学部主事会を設け、学部の教員に下ろす。また教員間の情報共有は学部会の前に短くても会を毎回設定するなどして工夫して取り組んでいく。 ・裁量予算は必要な活動ができるよう検討していく。 	